

# 一般質問

6月17日



自由民主クラブ

さ さ き だい すけ  
佐々木 大介

## Q 市職員の市外居住について A 市内居住を引き続き強く推奨

**問** 市外に住む市職員の割合が45%にも及ぶことが新聞報道にあり、道央の他市と比較しても群を抜いて高い数字となっています。市外居住の職員が全て市内に居住したと仮定すると、地方交付税だけでも五千万円程度の増収になると試算でき、市税や地域への経済効果まで考慮すれば、さらに大きな財政効果です。また、職員には地域活動における担い手としての期待もあります。市民の理解を得るには、市内居住促進に向けて職員個人の意識改革だけでなくとどまらず、より踏み込んだ施策が必要であると考えます。ほかの自治体で

は住宅手当に差を設けるなど、自治体裁量で市内居住を促進している事例もあり、住宅手当や通勤手当に差を設けるなどの施策について検討の考えはないか伺います。

**答** 市の持家の住宅手当は30年度で支給廃止が決まっています。賃貸の住宅手当や、通勤手当に差を設けることも、給与の決定過程や実費弁償という性質、他自治体の事例から、大きな差を設けることは難しいと考ええますが、市民の希望を考慮しできる限りの対策を講じていきます。  
(総務部)

## Q 市営住宅の建て替え・修繕計画について

### A 財政など総合的に勘案し取り進める

**問** ①市は平成23年度に公営住宅等長寿命化計画を策定し、長期的な観点で住宅ストックの適正化を図っています。が、老朽化した団地の修繕状況と今後の建て替え計画を示してください。②今後の市営住宅の運営には、民間の賃貸住宅や空き家

の活用に向けて家賃補助を行う住宅パウチャー制度の導入も必要だと思いますが、考えを伺います。  
**答** ①改修は平成25年度に若葉団地2棟8戸、平成26年度は八幡団地3棟12戸、今年度は八幡団地2棟6戸を予定しています。また、南花川団地の建て替えは平成28年度の事業着手が困難な状況で、今後は財政状況などを総合的に勘案し、公共施設等総合管理計画との整合を図りながら取り進めま

## Q 動物愛護への取り組みについて A ワンニャンBANK事業を継続

**問** ①動物管理の現状は保健所が大部分の業務を担っていますが、動物の相談窓口が市役所なのか保健所なのか分かりづらいため、それぞれの役割の違いを示してください。②市は平成15年から飼育希望者へあつせんを行うワンニャンBANK事業に取り組んでいます。が、これまでの実績と今後の事業のあり方について伺います。

**答** ①狂犬病予防法に基づき放浪犬は市が捕獲保護し道保健所へ移送、2日間の不明犬公示を行い飼い主の申し出があった場合は保健所へ連絡、ない場合は道の事業により登録され新しい飼い主を探す流れになっています。飼い主不明猫は保健所へ直接相談いただき、保健所の判断で保護、その後は犬と同様の扱いとなります。②過去



▲八幡団地

す。②社会情勢などから種々の手法の検討が必要だと認識しており、今後、調査研究したいと思えます。  
(建設水道部)

12年間の実績は譲渡希望者が犬14人、猫8人、提供希望者が犬16人、猫15人、成立件数は犬2件、猫3件で、市は本事業を道の事業の補完として位置づけており、今後も継続していきたいと思えます。  
(環境市民部)

## その他の質問

■将来的な公共交通のあり方や計画について  
■樽川5番通の子どもたちの安全確保について